

令和元年度 第2回 労働衛生専門委員会 議事録(案)

日時：令和2年2月12日(水) 15:45 - 16:45

場所：文部科学省研究交流センター3階 第5会議室

出席者：

【委員】 笹原委員長(筑波大)、村井委員(JAEA)、大井委員(筑波大)、道喜委員(筑波大)、市田委員(筑波産学連携支援センター)、照井委員(農研機構)、木村委員(産総研)、染谷委員(国土地理院)、佐々木委員(高層気象台)、小森委員(関彰商事)、光畑委員(筑波メディカルセンター)、佐藤委員(筑波社会精神医学研究所)、友常委員(コマツ)

【顧問】 谷顧問(土浦労働基準監督署)

【事務局】 稲葉事務局長、小瀧(記録)

(1) 「第8回生活環境・職場ストレス調査」について

前回委員会からの継続審議。配付資料1「第8回生活環境職場・ストレス調査に向けたWG概要(2020年2月)」をもとにワーキンググループ(以下、WG)活動結果と提案について委員長から説明。

(WG開催報告について)

第8回ストレス調査の実施に向けたWGは、前回委員会(令和元年5月15日)以降、10回開催。WGからの提案内容は以下の通り。

- ・サブテーマの設定：健康生成論を活かして、『健やかに働ける街づくり』
自殺のリスクの高い人の特徴よりも健康に働ける人の特徴を検証することで、筑波研究学園都市の労働衛生について改善することができる点はどこかを探っていく。
- ・予算編成：これまでは業者委託をして大規模調査を行っていた。今後はオンラインアンケートツールを使用する方針。質問の設計はやる必要があるが、オンラインアンケートツールの契約にすることで従来より大幅に経費削減が可能である。
- ・調査スケジュール：2020年度予備調査、2021年度本調査、2022年度報告書発表

(WGの位置づけについて) 以下は委員の発言要旨

○(委員長) これまでの調査は慣例的にWGが調査項目等を検討して実施してきた。経緯としては、第1・2回は委員会委員が実際に調査を担当し報告書も書いていた。第3回以降は委員会そのものでやるのが難しくなり、WGの専門の先生方に依頼し第7回まで実施してきた。しかしWGの位置づけがこれまで明らかになっていなかった。

委員会運営要項第3条にはタスクフォースの設置に関して言及があるが、WGの文言は無く、本委員会で運営要項内にWG設置を明記することについて諮りたい。

- これまで整理がなかったWGについて位置付けをきちんとすることは大変望ましいと思う。この委員会は様々な機関の集まりであり、専門的な部分は専門家にお任せする性格はもともと持っている。WGが調査について検討したことを委員会に提案をして承認を得るという構造をしっかりとさせることが重要だと思う。その場合、委員長とWG長が同一では、提案内容をそのまま通す委員会になってしまうので、委員会委員は意見があれば意見を言い得る立場であるという認識が大事。調査をやることについては反対ではないが、専門的な事柄が多く含まれるので、専門的な知識を持つWGのような小委員会が細かいところを詰めて、その内容を委員会が承認するという枠組み。
- WGメンバーがなぜ選ばれたのかを説明できた方が良いのではないか。
- WGそのものに関する規則を事細かに定める必要はないと考える。WGはその領域の専門家であるところのリーダーに一任をしたうえで、そのリーダーにメンバー選定や進め方を任せる。そのこと(リーダーにWG運営を一任する)自体も委員会は承認して、あとはもうリーダーに任せますよという形でよろしいのではないか。
- (委員長)第8回WGのリーダーと委員長は別。リーダーは松崎教授で分野の専門家の立場にいるため一番適任であると考え。その他メンバーの所属も分かるよう、資料にメンバーの所属を記したものに改める。

- ⇒WG設置を要項で定めること、WGのメンバー選定及び内容はリーダーに一任すること、WGは委員会に提案内容を報告し委員会が審議することについて承認された。
- ⇒WGからの提案である、サブテーマの設定・予算編成(オンラインアンケート契約)・今後の調査スケジュールについて承認された。

(2) (同日開催の) 情報交換会について (開催状況、次回について等)

配付資料2「「情報交換会」開催概要」、机上資料「「情報交換会」分科会メンバー一覧」に沿って、事務局から開催報告。

- ・本委員会前、13時半から15時半まで情報交換会を実施した。
- ・出席者は25名(委員、ファシリテーター含む)。
- ・第1回(平成30年2月7日)32名、第2回(平成31年1月30日)34名、第3回(令和元年5月15日)25名と続いて今回は4回目。
- ・今回分科会は3班×7～9名で開いた。

(アンケート速報)

- ・参加25名中、アンケート回収17件
- ・情報交換会が参考になったという回答は17件(100%)
- ・分科会(チーム)人数が適切だったという回答は17件(100%)
- ・情報交換会の時間配分が適切だったという回答は15件(88%)、短い2件(12%)

委員からの感想は以下の通り。

- 他機関の取組を聞くことができ参考になった。
- 国の機関、独法、民間企業などのそれぞれの組織の対応を聞くことができた。
- 分科会の自由議論は楽しく参加している、是非今後も続けていただきたい。2点懸念がある。1つ目は参加人数が減っていて、かつ参加者が固定傾向にあること。もっと新しい方に来ていただきたい。2つ目はテーマの設定。会終了後のアンケートでは新しいテーマはほぼでてこない。直前に募集しても新しいテーマは人数が集まらず1つの分科会を開けない、という新しいテーマが出てきにくい構造になっている。新しいテーマに関するニーズの汲み上げが課題である。
- 「参考になった」が100%というアンケート結果からも、情報交換会の目的を達成できているのではと思う。ニーズは日々変わっていくので、検討を重ねてより良いものにしていきたい。
- アンケートや参加者の感想から、情報交換会を続けることに賛成。テーマに関しては、ファシリテーターの力が必要だが、あえて幅を持たせて設定して、その場で話したいトピックを柔軟に吸い上げていくのがいいのではないかと。事前に複数回アンケートを取るのも手間。
- 初めて参加したが、自組織だけにいると他の機関と情報交換をする機会がないので参考になった。次回も参加したい。
- 情報交換の場があることで先駆的な取組を聞くことができたいへん有意義だった。幅広いテーマだったので話しやすかった。
- 2時間があったという間に感じた。多くの機関・立場の方が集まり、他ではどうしているかといったいろんな方の意見が聞くことができた。引き続き開催を希望。
- 今回は参加できなかったが、これまで参加した経験から、他機関の取組を聞く機会がないので非常に参考になる。ネットワーク構築ができるという面でも引き続きやってほしい。

⇒新規参加者を呼び込むため、次回開催案内は筑協メーリングリスト配信の他、今回参加者にも通知を送り、機関内において積極的に共有をお願いすることとする。

本日の議題は以上。

- ・次回委員会及び情報交換会は令和2年6月3日(水)を予定。

以上

《配付資料》

資料1 『第8回生活環境職場ストレス調査』実施に向けたWG概要（2020年2月）

資料2 「情報交換会」開催概要

《参考資料》

参考1 前回（2019年5月15日）委員会議事録

参考2 筑協「労働衛生専門委員会」委員一覧

参考3 筑協「労働衛生専門委員会」運営要項

参考4 「情報交換会」分科会メンバー一覧

参考5 「情報交換会」参加者アンケート用紙